

令和元年度 都民を対象としたテーマ別環境学習講座  
「スポGOMI大会 in 両国～江戸のリサイクルから学ぼう」

- 実施日時 令和2年2月16日（日） 9時30分～12時30分
- 受講者数 定員80名 受講申込者 126名 当日参加者 83名（22チーム）
- 開催場所 江戸東京博物館・両国の街なか

□実施内容

- ・両国の街なかでスポGOMI大会を行った後、江戸東京博物館で、スポGOMIの意義や海ごみ問題、江戸のリサイクルについて考える講義を実施しました。
- ・木瀬部屋のお相撲さんである美ノ海関、井上さん、周志さんが、スポGOMI大会にご参加くださいました。

○挨拶

- ・開催挨拶 東京都環境局総務部  
自治体連携推進担当 黒川課長



（開催挨拶）

【第1部 スポGOMI大会 in 両国】

○開会式

（講師）一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 代表理事 馬見塚 健一氏

- ・スポGOMIとは、予め定められたエリアで、制限時間内にチームワークでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツ。



（チーム紹介「がんばるぞー！」）



（チーム木瀬部屋の掛け声は「どすこーい！」）

令和元年度 テーマ別環境学習講座（第5回） 実施報告



(美ノ海関のご挨拶)



(馬見塚氏からルール説明)



(作戦会議)



(地図を見ながら作戦を練ります)



(両国国技館をバックに「ゴミ拾いはスポーツだ！」)



（雨の中、一斉に街なかに広がります）



（ごみ拾いをするチーム木瀬部屋）



（お相撲さんと駅前でごみ拾い）



（植え込みにごみがあります）



（きれいな街でもよく見るとごみがあります）



（歩道のすみのごみを拾う参加者）

○競技終了、計量開始



（雨の中、本当にお疲れさまでした！）



（たくさんごみが集まりました）

【第2部 講義】

- ・江戸東京博物館の会議室に移動し、講義を実施。

○講義「ごみ拾いはスポーツだ！ スポGOMIの持つ力」

（講師）一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 代表理事 馬見塚 健一氏

- ・スポーツのチカラで国や地域の社会課題を解決する活動を行っている。街の環境美化としてのスポGOMIだけでなく、ご高齢者の雪かき「スポーツ雪かき」、過疎化の進む街で「スポーツ柿取り」、商店街活性化「スリッパ卓球」、銭湯文化の活性化「RUNSPA」、プロスポーツと環境「まわるプロジェクト」など。
- ・オリックスバファローズの選手たちの使用しなくなったユニフォームをファングッズにリメイクし、グラウンドで販売。グッズの販売収益から、地元の小学校で選手と子どもたちが植樹。
- ・プラスチック等の海ごみは世界的な課題。ビーチに打ち寄せられたプラスチックごみ、捨てられた漁の網に絡まるウミガメ、海岸に打ち上げられたクジラの胃からプラごみが見つかるなど。
- ・年間800万トンのごみが海に流れ込んでおり、これらのごみは分解されるまでとても長い時間がかかる。例えば、ペットボトルは400年、釣り糸は600年かかると言われている。
- ・マイバッグやマイボトルを持参する、モノを大事にする、ごみが溜まりやすい河川敷や海岸などの清掃活動をするなど、わたしたちにできることを普段から行うことが大切。



（馬見塚氏の講義）



（もしも地球の歴史が1mなら…）

- ・ スポ GOMI は、これまでに 929 大会が開催され、97,877 名が参加。
- ・ 2016 年 6 月にロシア・トムスク州大会が行われ、それ以降、ミャンマーや韓国、ベトナムなど、海外でもスポ GOMI が広がっている。
- ・ ごみは幸せの抜け殻。環境問題は世界共通の問題。人任せにせず、自分たちの汗と情熱で解決しよう！

#### ○講義「ごみにする前に 直せる使える 江戸の暮らし」

（講師）江戸東京博物館 学芸員 田中 実穂氏

- ・ 江戸時代は 1603 年から 1868 年まで、265 年間続き、幕府が置かれた江戸には、一番多い時で約 100 万人の人々が生活していた。
- ・ 江戸時代は現代よりものが絶対的に少なかったので、ものを大切に使い、こわれても直して使っていた。
- ・ こわれたものを直したり、使用済みのものを集めたりする職業があった。傘がこわれたら古傘買（ふるかさかい）、茶碗が割れたら瀬戸物焼接（せとものやきつぎ）、あかりがこわれたら提灯張替（ちょうちんはりかえ）、なべに穴があいたら鋳鉄師（ちゅうてつし）、はきもののひもがきれたら雪駄なおし（せったなおし）。使えなくなった紙は紙屑買（かみくずかい）が回収し、すき返して再生利用された。
- ・ 着られなくなった服は古着市で売買された。古着はとことん穴をうめて使い、服として使えなくなったら雑巾にし、そのあとは燃やして灰は肥料にする、というように徹底して使った。
- ・ 江戸時代のひとは、こわれたら直してもらい、また使う。そこまでして使うからものを大切にし、ごみを減らすことができた。
- ・ ものにも生命があると考え、粗末に扱えばちがあたりとされた。



（田中学芸員による講義）

#### ○スポ GOMI 大会閉会式

- ・ 約 40 分間の競技時間に、みんなで集めたごみの量は約 35 kg。あいにくの雨でしたが、たくさん集めていただきました。
- ・ 1～3位のチームには、表彰状と賞品としてオリンピック・パラリンピックグッズをお渡ししました。



（スポGOMI大会閉会式）

#### ○アンケート記入・講座終了

参加者の皆様にアンケート記入にご協力いただき、江戸東京博物館の常設展のチケットをお渡ししました。

雨の中、ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。